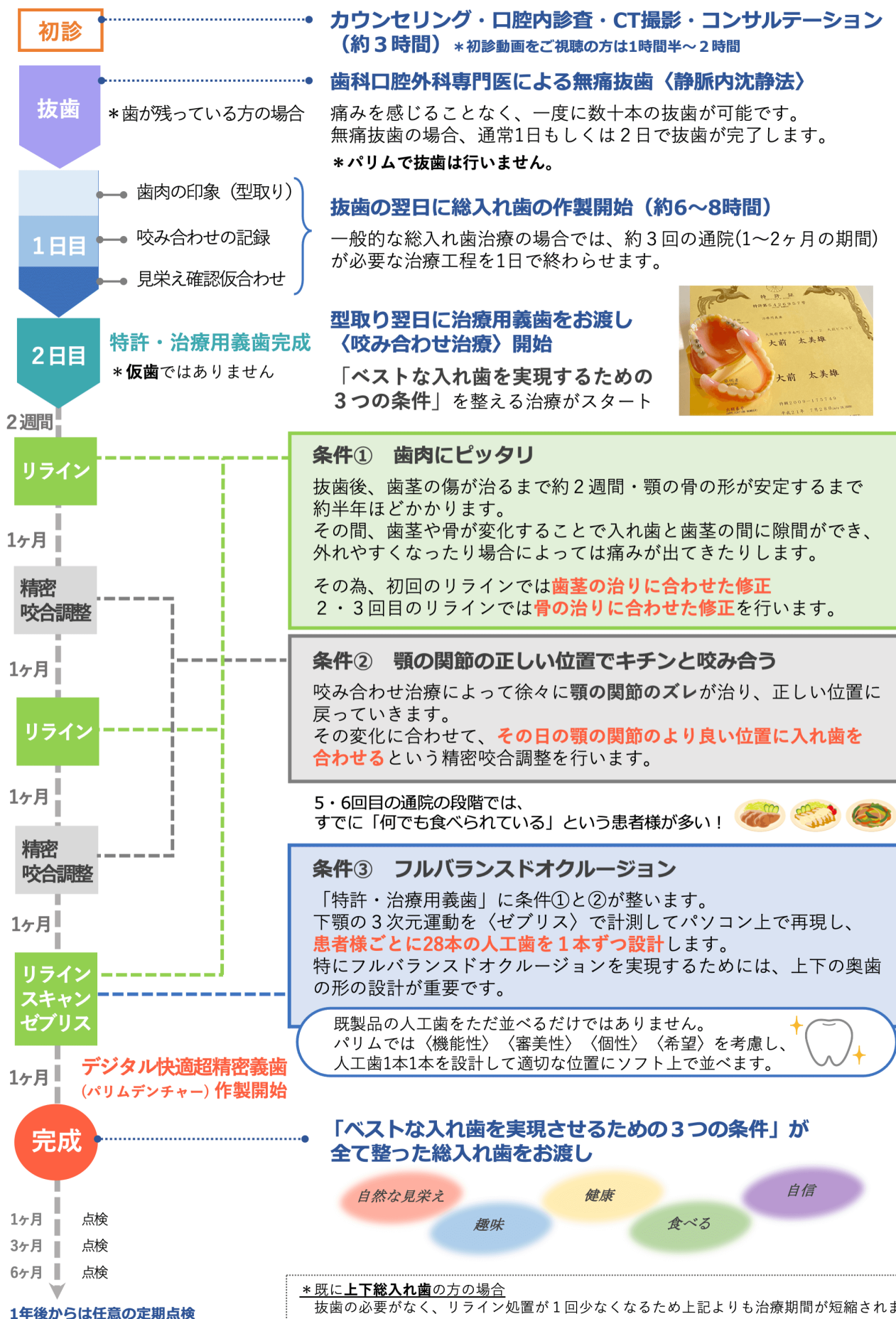


デジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー）治療の流れ

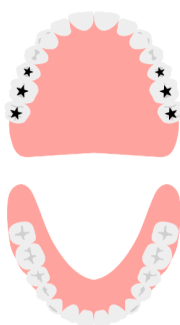


デジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー） 作製コース

お渡しする 2 種類の総入れ歯

治療の初日に型取りを行い、翌日に完成してお渡しする**一つ目の総入れ歯**です。

特許・治療用義歯



デジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー）を完成させるために必要な**【咬み合わせの治療】**を行う上下総入れ歯です。

*この特許・治療用義歯は「仮歯」ではありません。

お渡しの時には、入れ歯の裏面を削って合わせる必要がないほどピッタリで、咬み合わせるとキチンと奥歯が噛み合い、見栄えもより自然です。

このような状態の総入れ歯は、一般的には最高レベルの総入れ歯と言えます。パリムデンタルでは、この最高レベルの総入れ歯「特許・治療用義歯」から治療がスタートします。

デジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー）完成後は、緊急時の予備の義歯としてお使いいただけるよう保存袋に入れてお渡しします。

咬み合わせ治療後にお渡しする パリムデンタルの〈最善の総入れ歯〉です。

デジタル快適超精密義歯

（パリムデンチャー）



総入れ歯を機能させるために必要な 3 つの条件

- ①歯茎にピッタリ
- ②咬み合わせよく
- ③フルバランスドオクルージョン

特許・治療用義歯を用いた咬み合わせの治療により、この条件を全て兼ね備えた上下総入れ歯がデジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー）です。

入れ歯安定剤を使わずしっかりと機能します。そのため歯肉への負担が少なく、顎の骨が減ったり歯肉が痩せてしまうということはほとんどありません。

*入れ歯を長く快適にご使用いただくためにも、年に1度の定期点検が大切です。



医療法人中道会

パリムデンタルクリニック

PARIM DENTAL CLINIC

TEL 0120-816-108 <https://parim.jp>

デジタル快適超精密義歯（パリムデンチャー） 作製コース

総入れ歯の作製に欠かせない「咬み合わせ治療」について

実は「咬み合わせ」には誤解が多く、誤った認識をしてしまっていたり、本来行うべき治療が行えていないことも多いのです。

「咬み合わせ」という言葉は広い意味を含みます。

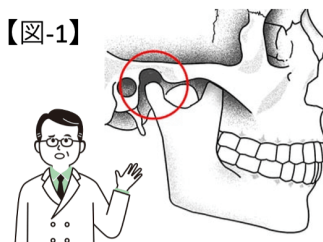
上下の歯の当たり具合を咬み合わせと言っても間違いとまでは言い切れませんが、

**左右の顎関節が正しい状態（下顎の位置）で咬み合わせた際
上下の歯がキチンと合う**

【図-1】

これが正しい咬み合わせに必要な説明です。

たくさんの歯を失ったり、インプラントや総入れ歯が上手くいかない方の多くは、歯や入れ歯を咬み合わせた時に下顎が正しい位置になく、【図-1】のようにズレていることがほとんどです。



総入れ歯治療にこそ「咬み合わせ」がとても重要で、正しく治療を行うことでお口の問題を根本から解決へと導き、総入れ歯をキチンと機能させることができるのです。



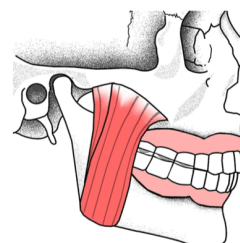
「キチンと治った」といえる本当の歯科治療では、
顎関節の骨と骨の位置関係を正しい位置に治すということが必須で、まず第一に行うこと。

特許・治療用義歯を用いた「咬み合わせ治療」

顎関節の骨と骨とを正しい位置に治療するためには、
院長大前が持つ特許・治療用義歯（PAT.5426957）を使用します。

特許・治療用義歯を装着した状態で食べ物を噛むことで、
咬筋という筋肉の働きにより下の顎ごと引っ張り上げるような力が発生します。

この咬筋の作用によって徐々に顎の関節のズレが無くなっていきます。



通院が月に1回で済むのは【特許】に秘密があります！

咬み合わせ治療によって上下の入れ歯の位置関係は変わり続けます。
本来は頻繁に通院が必要となりますが、パリムデンタルでの通院間隔は月に1回です。

特許・治療用義歯は、上の奥歯には金属、下の奥歯には削れやすい歯を用いて製作されます。

顎関節のズレの治りと共に、上下の入れ歯の位置が変化した結果、
先に当たる金属によって下の奥歯が選択的に削れていきます。

このように自動で奥歯が削れて調整されるため、調整のために何度も通院する必要がなくなります。

